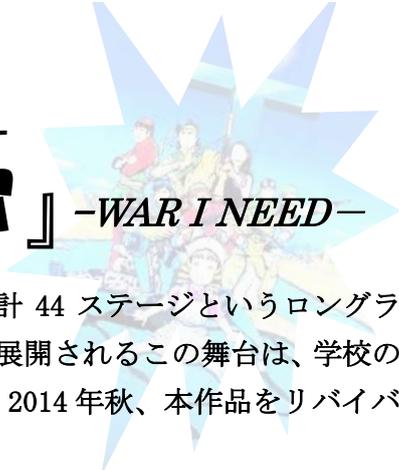




うーあいにー
『我愛你』-WAR I NEED-



このお芝居は1995年4月、劇団往来が約一ヶ月間 計44ステージというロングラン公演に挑んだ作品です。SF仕立てのストーリーが軽快なテンポで展開されるこの舞台は、学校の芸術鑑賞会でも数多く上演させていただいております。劇団往来では2014年秋、本作品をリバイバル上演！新たに学校公演作品としてご提案いたします。

【Story】-時は今から1万年後の未来。ここは、松屋町解放戦線と政府軍との激しい戦いが繰り広げられている青葉台二丁目。傷つき道に迷った5人の解放軍戦士たちは、逃げ込んだ建物の中で「鮎」と名乗る怪しい医者と思議な少女「キリコ」に出会う。一方、「綾乃小路コジロー」もまた、解放軍の戦士として戦っていた。名家の嫡子…その呪縛から逃れるべく兵士に志願し、彼はたった一人で戦場をさまよっていた。果てしなく続く戦争…、戦う理由も目的もわからないまま彼らは“その場所”へと向かっていた。彼らの記憶の底にある「ウオーアイニー」というキーワード…。やがて驚くべき事実が彼らに告げられる…。

刻一刻と迫りくるその時…

「俺たちは一体、何のために戦っているんだ？」

「おっちゃん、うちの目、洪水や…」

「涙か？おかしいなあ
そんな機能つけた憶えないけどなあ」

戦争を決着させるため、起死回生の兵器としてつくられ、人間と同じ身体機能を与えられ成長してゆくドール(アンドロイド)たち。

閃光の一瞬！
その時彼らは…

炸裂する爆音の中、絶望の淵で彼らが選んだのは、“夢を見るために生きる”ことだった。

「あかん、失敗作や」

キリコの言葉は、人間を創ったであろう神の言葉に重なって…

今日も又、世界のどこかで戦争が行われています。世界は一つと言うけれど、人間は本当に連帯することができるのでしょうか。繋がりが合おうとする愛、個に分解していくことを促す闘争本能…。人間の本质とはいったいどちらなのでしょう？戦う目的を知らずに戦い続けるドールたちの姿は、ときにシステム化された社会の中で、もがくように生きる若者たちの姿に重なり、そして、デフォルメされ大いに笑える家族の姿は、どこかひずみを抱えてしまった親子の関係性や家族の在り方を浮かび上がらせます。物語は、SFという虚構の世界を通し、人間の本质と現代社会について、リアルに生徒の皆さんに問いかけます！

【学校公演感想文】

戦争や人間の愚かさなどについて改めて考えさせられた。ドールなのに人間と同じ感情を持つという設定がよかった／人間としての感情や思いがすごく表れていて、ドールたちの一言一言が胸にしみました。人を愛するということと、戦争に対する気持ちがすごく伝わってきました／ドール役の人は、ほんまにドールみたいに動いていてすごかった。物語も感動した。見ててめっちゃ楽しかったし、眠たくもありませんでした／内容は少しむずかしかったけど、迫力があって次はどうなるのかとワクワクしててました。etc…

脚本：田中守幸
演出：鈴木健之亮

上演時間：約2時間
出演者数：13名

冒険心溢れるSF仕立て！ぞう！ご期待！

